

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490900018		
法人名	社会福祉法人 積善会		
事業所名	グループホームやすらぎの里		
所在地	豊後高田市呉崎775-10		
自己評価作成日	平成26年2月9日	評価結果市町村受理日	平成26年6月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成26年3月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方々の思いを尊重するように心掛けております。外出の機会を持ち、自分らしさを出して頂き、心豊かな生活が送れるように個人を大切に支援を努めております。地域との交流に力をいれております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・地域の小学校との交流が継続的されており、利用者の喜び、認知症啓発活動につながっている。
 ・利用者の思いを積極的な外出支援につなげ、個別支援や全利用者での集団外出支援が行われている。
 ・全利用者が日中、排泄物品の工夫や誘導により、布パンツを利用し、トイレでの排泄を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関、廊下に掲示し常に見れるところに掲示している。又職員の名札に記載している。毎月の会議で理解しあうように努めている。	理念は、来訪者の目にとまる場所に掲示し、利用者支援や活動の際の原点としている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	学校の入学式、運動会、地域の行事に参加して交流を深めている。老人クラブの方と門松作りを行い交流を深める。	事業所開設時、管理者の働き掛けて始まった地域の小学校との交流が継続され、学校行事への参加、生徒の事業所訪問、認知症学習と年々盛んになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症について正しい理解を広めていくことが必要と考えています。小学校の交流を第一歩に寸劇・勉強会を開催し、認知症の理解、助言に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状報告を行い、提案された意見を参考に実践に繋げている。又、入居者の方に参加して頂いている。	2ヶ月毎に開かれる会議では、事業所からの報告の他、委員からの意見や提案が出されている。会議には利用者が輪番制で参加している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の住民検診を受けて健康管理に努めている。定期的に発行する「やすらぎ便り」を行政、地域包括センターに配布している。運営推進会議に市役所介護保険課の担当者の方に参加して頂き意見を頂いている。	運営推進会議の中で災害対策、会議の開催時間等の意見や提案が出され、検討課題として母体法人で話し合われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で委員会を開催しており、拘束が発生する前にリスク・課題を検討している。全職員が共有認識を図り、安全に配慮して拘束のないケアを実践している。	毎月委員会で利用者のBPSDに対して事例を出して話し合っている。転倒リスクのある利用者は居室でセンサーマットを利用して安全面の確保に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の行動言動に対してお互いに意見出し合い、自己を振り返りながら日々のケアに努めている。		

事業者名:グループホームやすらぎの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を開き職員の理解を深める様になっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にケアの考えと取り組みを丁寧に説明し、入院時居室使用同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の思いを察知できるように努めている。玄関にご意見箱を設置し要望や苦情を伺っている。また年2回の家族会を開催し意見や要望を運営の反映に繋げている。	家族会は敬老会や事業所行事に合わせて開かれ、半数以上の家族の出席がある。一緒に食事をする事で利用者と家族の関係の継続と意見等の表出の機会になっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り、毎月の会議で職員の気づきや意見を自由に言える機会を作り聞き出せるように努めている。	会議の中で職員から出された担当利用者のことばや希望は、利用者の外出行事等に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の抱えている問題等聴いてくださり向上を持って働けるよう環境に配慮がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に積極的に参加させて頂き質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大分老施協所属のGH研修に参加させて頂き意見や経験をケアに活かしてしる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族が入居に対して不安を感じている時は要望を十分にお聞きし不安の軽減を図り信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者、ケアマネがサービス導入までの経緯についてゆっくりお聞きしている。ご家族様が不安に思っている事を把握し、要望に応えられるように信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族様に思い、状況等を十分に確認しながら関係機関担当者等とも協議しあい、改善に向けた支援の提案や必要なサービスに繋がられるように対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居されている方々は人生の大先輩であり生活歴等把握したうえで職員が情報を共有し利用者の「思い」に添って信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時利用者様の暮らしの出来事や気づきを報告し施設での活動の写真と園だよりを送り情報の共有に努めている。ご家族様に対応方針を報告しながら納得して頂ける支援を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の方の友人や知人、親戚など定期的に面会に来られる。	利用者に会いたい人を聞き、個別外出支援につなげている。新聞のおくやみ欄を見て、知人の訃報を知った利用者の家族と連絡を取り初盆参りを話し合う等、利用者の思いを大切にした馴染みの関係支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が共有場所で出来るレクや掃除、洗濯、食事の準備が一緒に出来る様、雰囲気作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転院された方がいても関係機関との情報交換等行い定期的にお見舞いに行き、様子を伺った。お亡くなりになった方もおられお通夜、葬式にも参列させていただいた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声を掛けご本人の意向の聞き取りを行い、把握に努めている。又、聞き取りの難しい方には昔得意だったことや趣味を实践し、一人一人の思いをシートに記入し本人本位の検討を行っている。	今年1月からアセスメントの様式を変更し、介護計画作成担当者が担当職員から得られた情報を加えて記載している。また、センター方式による本人の思いを丁寧に記入している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に出来る限りこれまでの生活歴・個性や価値観等の情報を伝えてもらい職員全員が共有できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の介護計画書を各勤務者がチェックし現状把握するように努めている。又、新たな発見があった場合は職員全員が共有できるように伝達を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の職歴やこれまでの経験、得意な事を活かし入居者の方やご家族の思いが反映できるように心がけている。会議にて職員全員で担当の入居者の実践報告や意見交換を行い共有を図っている。	利用者の要望や特技を重視し、家族から得られた情報を組み入れた介護計画の作成となっている。利用者の不安等、状況の変化時の支援の計画が立案されていない。	日々の利用者の変化に即した具体的支援の表わされた介護計画が立案され職員間で共有しての利用者支援へ活かされることを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を基に介護計画書の評価や見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況を踏まえ通院等、必要な支援を行っている。又、一人一人のニーズに応えられるようにスタッフが外出支援の付き添い等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通じ各関係者から地域資源の聞き取り把握を行っている。又、地域の方にはグループホームを知って頂き協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者ご家族の希望又、職員の判断の場合はご家族に連絡し必要な医療機関に受診を行っている。ご家族の付き添いが出来ない場合は職員が付き添いを行い、受診後は家族・職員間で情報共有を図っている。	利用者家族の希望するかかりつけ医受診が行われている。家族から往診の希望が提案されており、検討されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内に看護職員がおり急変時等の支援を受け入れられるように体制をとっている。又、日頃より連携を図り入居者の健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の方が入院中、職員はGHIにて生活が続けられるように定期的に面会を行い、入院中の生活状況が把握できるように対応している。又、想起の退院が出来るようにご家族の意向を含め入院先医療機関との連携を深め調整を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化や終末期の希望を確認し記録として残している。又、退院後等定期的に意向の把握を行っている。	事業所で対応できることとできないことを契約時に伝えている。主治医の医学的判断を退所、住み替えの方針としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	誤嚥吸引、タッピング方法、外傷等の応急処置は対応できるように研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の指導で非常防衛災害訓練を行い1回は夜間想定で火災訓練を行っている。月1回施設内で避難訓練の実施を行っている。運営推進会議を通じ災害時の協力を得ている。災害時の備蓄を行っている。	全利用者参加での避難誘導訓練や消火訓練が行われている。消防団や老人会への訓練の呼びかけを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	情報が漏れない為、個々の情報は、外部の目に触れない所に管理している。また、排泄誘導の際の声掛けは、耳元で小声で行う。入浴や着脱を行う際は人目に触れないように戸を完全に閉めて対応している。	利用者の特技やできることを見極めながらこれを活かしたことを行ってもらい、本人が役に立っているという自尊心を大切に、支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話や日常生活の中で、ご本人様の行きたい所やしたい事を聞き取ったり、感じとり、希望に沿った外出やレクリエーションを実施している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のその日の体調や気持ちを尊重し、その方らしい生活が送れるように個別に対応するよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着脱などご本人様を選べるよう配慮し、個々の尊重を図る。レクリエーションではエステなども取り入れ、整容にも力を入れている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、利用者の体調や気分につけながら共に作っている。利用者に食べたい物の聞き取りをし、毎週一回喫茶店、レストランをして楽しい時間を過ごせるよう心掛けている。	毎食、共用空間厨房で手作りの食事が作られている。テーブルクロスをかけた、場所を変え複数のおやつを提供し、選ぶ喜びや楽しみにつなげる支援が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量や水分摂取量を日々記録・観察し全職員と共有行い、少ない方には個別に提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の能力に応じ、声掛け、介助、見守りを行い、その都度口腔内の観察も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄状況を全職員で情報共有し、排泄パターンの把握に努め、声掛けにてトイレ誘導を行っている。又、その方に応じた排泄物品を使用している。	日中は介護度1～5の利用者全員が工夫をして布パンツを着用し、トイレでの排泄を行っている。失禁や尿漏れ等の際も不快感を排泄の自立支援につなげるように工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝の牛乳、10時のバナナジュース、食物繊維の多い食材の提供。他トイレ・入浴時の腹部マッサージ・散歩等を行い自然排便を努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	季節に合わせて温度(浴室・脱衣所・廊下・ホール)を調節し快適に入って頂けるよう配慮している。利用者の希望を聞き、体調不良で入浴困難な方には清拭・足浴を行っている。	週2～3回の入浴日となっている。夕方からの入浴が基本となっており、日中時間帯に活発な外出や活動が行われ、夜間の良眠にもつながっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	レクリエーションや散歩・行事に参加していただき、居室の温度や衣類の調節等を行い安眠できるよう繋げている。寝付かれない場合、温かい飲み物を提供したり落ち着かせるまで訴えを傾聴するよう心掛けている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の些細な状態変化も細かく記録し報告を徹底している。職員が薬の把握ができるようファイルに保管し変更があった場合伝言板に記録し全職員が把握できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の状態や体調に考慮しながら、大工や料理・卓球等ご本人様の興味や得意なことに参加して楽しんで頂き、他の利用者や作業されたり会話を楽しまれたり気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お誕生日会には事前にご本人様・ご家族様の要望をお聞きし、お墓参りや空港見学等出掛けられる。又、季節を感じて頂けるよう定期的に外出を行っている。	日常的に外気にふれる支援が行われている。個別での外出支援や全利用者参加での集団外出支援が行われている。今年度、家族同行での一泊旅行を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持は、ご本人様の安心・満足を感じて頂くために、ご家族様の協力を得て少額のお金を持参している方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の方に本人様が書かれた暑中見舞いや年賀状を送付している。ご希望があった時には電話をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節が感じられる様、飾りや写真を掲示し、家庭で過ごしているような雰囲気作りをし、利用者、職員が会話を楽しみながら居心地良く過ごせるよう環境づくりに努めている。	定期的な換気や湿度管理で感染予防が行われている。利用者が思い思いに過ごしたり、集団でのゲーム等を楽しむ場づくりが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	新聞を読まれている方やテレビをゆっくり観られるようにソファを置いている。料理を好まれる方に皮むきや米研ぎをしていただいている。台所で難しい場合はテーブルで作業をしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた家具や寝具を使用し、また家族の写真や季節に飾りつけをし、安心して暮らしてもらえるように配慮している換気や加湿にも気をつけ環境を整えている。	居室入り口には名札と共に利用者と担当職員の写真が張られている。壁には職歴や趣味の写真が貼られている。職員手作りのベッド柵カバーが取り付けられ、ベッド上の備品が落ちない工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには「トイレ」と張り紙をトイレ内にも「手を挟まないように気をつけてください」と張り紙で注意を呼び掛けている。物の配置にも気をつけ、危険防止の為環境整備をしている。		